

平成20年度 第二回VUV・SX高輝度光源利用者懇談会幹事会議事録

日時：平成20年11月4日（火）13：30 ～ 16：30

会場：東京大学物性研究所 6階 第2会議室

出席者：吉信 淳（会長、東大物性研） 雨宮健太（KEK） 上野信雄（千葉大） 尾嶋正治（東大）
小野寛太（KEK） 鎌田雅夫（佐賀大） 木下豊彦（SPring-8） 木村昭夫（広島大）
木村真一（分子研） 組頭広志（東大） 島田賢也（広島大） 辛 埴（東大物性研）
大門 寛（奈良先端大） 間瀬一彦（KEK） 原田慈久（東大） 堀場弘司（東大）

委任状：4通

オブザーバー：柿崎明人（東大物性研） 中村典雄（東大物性研） 松田 巖（東大物性研）

配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 平成20年度第一回幹事会議事録

報告・議事

- ・ 東京大学放射光連携研究機構の現状、及びアウトステーションの利用計画について
 - (1) 尾嶋正治機構長、柿崎明人同機構物質科学部門長より、機構及びアウトステーション計画、全国共同利用体制の現状と今後の予定について報告がなされた。
 - 物質科学部門において、SPring-8の長直線部に軟X線アンジュレータとビームラインおよび分光光学系の建設、整備が始まっている。2009年度にはビームラインが完成し、高輝度放射光を利用した物質科学研究をスタートできる見込みである。
 - 機構の SPring-8 オフィスが兵庫県のナノテク研究センターで運営を開始している。
 - 共同利用・連携体制は、「共同研究」「地域連携」「放射光連携」「国際連携」という柱からなるが、当懇談会幹事会での議論のもと共同利用委員会を設置し、実験課題申請、共同利用経費などについて具体的に検討を進めている。
 - 生命科学部門では、深井准教授の論文が **Nature** 誌に掲載された。
 - (2) 各サブグループの進捗状況の報告がなされた。
 - ・ ナノビーム高分解能光電子分光 ----- 組頭広志氏（東大工）
 - ・ 生体物質軟X線発光分光 ----- 原田慈久氏（東大工）
 - ・ 時間分解軟X線分光 ---- 松田 巖氏（東大物性研）

(3) 移相器 (phase shifter) の開発状況、今後の予定について、中村典雄氏 (東大物性研) より報告された。

- ・ 物質科学アウトステーション共同利用体制について

大門寛計画委員長より、8 月 30 日(土)の共同利用体制WG 第一回会議で検討された利用体制について報告され、承認された。(実験申請、審査委員会、成果報告、共同利用経費などについて)

- ・ 前回議事録の承認

平成20年度第一回VUV・SX高輝度光源利用者懇談会幹事会議事録が承認された。

- ・ 平成20年度総会について

平成21年1月11日 (日) 12時より、東京大学本郷キャンパス小柴ホールにおいて平成20年度総会を開催し、ユーザーに向けて現状・今後の予定について報告するとともに検討の場とする。

(議事録事務局)